

春日市いきいき健康づくり計画（案）に係るパブリックコメントの実施結果について

1. パブリックコメント開催概要

対象者	春日市に在住、または通勤・通学する人
期間	令和6年1月25日（木）～1月31日（水）
公表資料	春日市いきいき健康づくり計画（案）
意見	8 件

2. 意見

番号	計画名	項目	意見全文	回答
1	自殺対策計画	児童生徒のSOSの出し方に関する教育	第7章 春日市自殺対策計画の実践について 学校教育において、「正しい人、正しくない人」「いい人、悪い人」という価値観が植え付けられているように感じます。 誰かの決めた正しい人、いい人を目指すことが当たり前になっていて、自分が悪い、できないという思いのまま、大人になって社会に出て、苦しんでいるように思います。少ない先生の人数で統率をとるために、そうしてきた背景もあるかもしれません。しかしそれが、不登校問題にも直結していると思います。先生も子どもたちも楽しく学べるために、学校で働く人員を増やすことを提案します。各クラスの勉強の補助をしたりする人を一人でも二人でも。	教職員につきましては、県の教育委員会が配置しておりますので、増員について市教育委員会としての対応は困難ですが、様々な面から必要性を訴えながら、引き続き県に対し増員の要望を行ってまいります。
	自殺対策計画	生きることへの促進要因への支援	また、再就職もさまざまな職種で、年齢や学歴に関係なく、間口を広げ、機会を与えることを提案します。教えればできるようになる仕事は、たくさんあるはずですが。学歴や経験ばかりを重視していると、年齢が上がってから転職が難しくなり、結果として、自殺者を増やすこととなります。再就職のための訓練や教育等をしっかりとハローワークだけに頼らずに、市でも手厚くすることで、我慢しながら仕事を続けることが減ります。何度でもやり直しの効く人生だと感じることで、自殺する必要性が減るのではないのでしょうか。	市では、生活困窮者や生活保護者を対象とした就労支援を行うなどハローワークと連携した取り組みも実施しております。 また、生活困窮者のうち、引きこもり傾向のある人や働くことに不安のある人に対して、就労に至る前の基礎的な能力の形成を計画的に支援する就労準備支援事業を実施しております。今後も引き続き、一人ひとりの状況に合わせた丁寧な支援を行ってまいります。 就労の問題は多岐に渡っています。まずは、国や県が実施する訓練や教育等の事業について周知を行うなど、必要な連携をとり、また、市として対応すべき事項が生じた場合は必要な検討を行ってまいります。
2	食育推進計画	生涯にわたった食育の推進に関する取組（学童・思春期）	学童・思春期の項目と中学校給食について P76の内容は中学校では給食を食べていない生徒にはすべて当てはまらないと思います。 食べ物を選ぶ力を育てますと中学校の給食の資料でも見ましたが、親がフルタイムや早朝から仕事をしていてお弁当が作れない子供たちやアレルギーを持つ子供たちは選ぶことはできません。（選ぶ中にパンがあることも大切な成長期の子供の1食には栄養面が考えられていないと感じます。）お弁当（注文のお弁当）を残す子が多いと聞きますが、食の大切さが伝わらないのではないのでしょうか。 大人でもこれだけおかしと感じているのだから、本人たちはもっと感じているに違いありません。 ぜひ春日市も完全給食になれば、P76の項目が本当に子供たちにとって素晴らしい環境だなと感じると思います。	中学校給食を全員給食に変更する場合は、配膳方法の変更、施設整備、調達方法、人的体制、アレルギー対応、食育の在り方、そして学校時制の調整などの様々な課題を整理する必要があります。 今後、国の動向などを注視しながら、課題の整理を含め研究してまいります。

3	食育推進計画	生涯にわたった食育の推進に関する取組 (学童・思春期)	<p>中学校の給食について 市内の小学校と同様に、まずは全員制完全給食の実施は、必須であると考えます。また、アレルギー対応など命に関わることに、義務教育に関わる期間、中学生まで実施は必要だと考えます。センター式自校式カフェテリア式配達式、その他検討は必要と考えますが、まずは全員制完全給食の実施の検討を求めます。</p> <p>さらに進んだ食育として、オーガニック食材、無農薬減農薬の食材を使った給食の導入にも取り組んでほしい。子どもたちの健康はもちろん、オーガニック食品の導入による環境負荷の低減、そして生産者を支えるということも含め、食育として非常に意味がある取り組みになります</p>	<p>中学校給食を全員給食に変更する場合は、配膳方法の変更、施設整備、調達方法、人的体制、食育の在り方、アレルギー対応、そして学校時制の調整などの様々な課題を整理する必要があります。また、有機食材については、安定的な供給や購入価格などに課題があります。</p> <p>今後、国の動向などを注視しながら、課題の整理を含め研究してまいります。</p>
4	食育推進計画	生涯にわたった食育の推進に関する取組 (学童・思春期)	<p>日本国は2000年頃から、少子高齢化の危機が叫ばれ始めましたが、国はその対策を見送り、また国会議員の定数を減らす意向だけを見せながらも育児に対する助成を先延ばししてきました。円安の中、子育て世代を囲む雇用条件は厳しく、正社員への道は狭く、経済力が低迷し右肩上がりの雰囲気さえありません。</p> <p>一方、春日市の財政は、毎年計画予算に対し決算は約8%の黒字で決算を続けております。国の子育て世代への助成が手遅れの状況下、地方から率先して子育て助成事業を推進すべき時期であります。</p> <p>まず、中学校の完全給食化そして完全無料化を早急に条例化し実行に移すべきと考えます。</p>	<p>中学校給食を無償化する場合は、全員給食への移行を検討する必要があります。この場合、配膳方法の変更、食育の在り方、施設整備、調達方法、人的体制、アレルギー対応、そして学校時制の調整などの様々な課題を整理する必要があります。加えて最大の課題は、無償化に伴う財源を恒常的かつ安定的に確保する必要があるということです。参考までに、市費で年間約6億4,000万円が毎年継続的にかかる経費となります。</p> <p>今後、国の動向などを注視しながら、課題の整理を含め研究してまいります。</p>
5	食育推進計画	生涯にわたった食育の推進に関する取組 (学童・思春期)	<p>学童・思春期について、食育などにとっても共感します。しかし、中学校給食はアレルギー対応ではないですし、小学校も含めて牛乳や小麦は消化に良くないと思います。消化の悪い食事は勉強に集中できない原因になるといわれています。</p> <p>全国ではオーガニック給食に取り組む動きがすでに始まっています。無料化もわかりやすいです。議会で反対意見多数でしたが、予算がないのなら国に意見を出してお金をしっかりともらおうように呼び掛けてほしいです。農家が少なければ有機農園を補助して育ててください。</p> <p>アレルギーは腸から対処可能です。良い菌を増やすことで副鼻腔炎や感染症にも強い体を作ることが可能です。ですから、ぜひ有機農園を補助し、オーガニック給食に取り組むことをお願いします。</p> <p>高取保育園の給食は、無農薬玄米、みそ汁、魚の煮物、オーガニック野菜、それから納豆です。この保育園に入って食事を変えると、アトピーやアレルギーが改善していく様子が「いただきます!」では時系列を追ってリアルに記録されています。長崎県のマミー保育園では、給食を変えてから、インフルエンザなどの感染症による欠席が劇的に減りました。</p>	<p>有機食材の安定的な確保や購入価格などについては、市単独での解決には課題があることから、学校給食への導入については、今後の国の動向などを注視しながら、課題の整理を含め研究してまいります。</p>

6	食育推進計画	生涯にわたった食育の推進に関する取組 (学童・思春期)	<p>春日市の中学生は選択式給食になっています。小学校のような全員給食を望みます。自炊式が一番ですが一歩譲ってセンター式です。福岡県60市町村のうち、全員給食が実施されていないのは春日市・大野城市・久山町・須恵町・宇美町のみです。</p> <p>食を通したコミュニケーションを図ることを促し、共食の重要性を普及啓発するためには、中学校の全員給食の実施が必要だと考えます。</p> <p>中でも、給食の重要性については、思春期の子供たちが共食の機会を得られる唯一の場であり、共食の意を成していないのではないのでしょうか。</p> <p>経済格差、共働き(親が多忙)、朝食抜き、アレルギー、家庭の事情(病気、キャンセル、育児放棄、その他)の課題を抱える家庭が多い中、1か月ごとのデリバリー給食、菓子パン、弁当の選択制では、栄養・食の格差が起こります。</p> <p>共働きで親が忙しかったり、朝食坊で朝食抜きの子供たちは特に思春期に多いと思います。それに伴い、お腹がすくので給食時間は3時間目のあとが良いと考えます。13時は遅すぎます。学校に来たら1日1食は栄養のある食事ができるという場所であってほしい。</p> <p>【小学校のような全員給食の利点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思春期の子供たちが共食をすることにより、食の格差がなくなる。 ・1日1食でも栄養のある食事ができる。 ・配膳なので量を調整できて、残食を減らす努力も可能になる。 ・小学校のようにアレルギー対策ができる。 ・ひきこもりの子供たちも給食があるからとの理由で学校に登校するきっかけを作れる。 ・親は、昼食の心配をしなくて安心して働ける。 <p>成長期に菓子パンで栄養が摂れると思いますか。人の体は食べ物でできているのです。</p>	<p>中学校給食を全員給食に変更する場合は、配膳方法の変更、施設整備、調達方法、人的体制、アレルギー対応、食育の在り方、そして学校時制の調整などの様々な課題を整理する必要があります。</p> <p>今後、国の動向などを注視しながら、課題の整理を含め研究してまいります。</p>
7	健康増進計画 自殺対策計画	健康管理 (休養・こころの健康) 自殺対策を支える人材の育成	<p>心の健康については、個人の範囲を超えた食環境や休養の体制が必要なことから、国の食、水に対する添加物や農薬基準の根本的な見直しと食料産業、外食産業への指導と第三者機関のチェックが必須であるし、働き方改革の根本的な見直しと各企業での実施の詳細を検討する第三者期間のチェックなどが必須だと思います。もはや市の範囲では対処療法にしかならない事を踏まえ、本気で国への改革提言をすることが必須だと思います。</p> <p>ゲートキーパー養成講座の頻繁な開催(最低でも3ヶ月おき)とその後のフォロー講座の実施、受講者同士の情報交換の場としての交流会の実施が必要と感じます。</p>	<p>必要に応じて、国の動向や法律、大綱などに基づき、市の現状に合わせた、企業に向けた働き方改革や農林水産にかかることなどについての対応を検討いたします。</p> <p>市が実施しているゲートキーパー講座は、自分自身の心の健康づくりに役立てていただくとともに、不安や悩みを抱える人に寄り添うことができるようにその対応方法等について学ぶことができる内容となっています。</p> <p>より多くの市民に講座を受講していただくことができるように、今後はオンラインでのゲートキーパー養成講座の開催やこころの健康づくりに必要な情報の発信など、より効果的な実施方法などについて検討してまいります。</p>
8	健康増進計画	自然に健康になれる環境づくり	<p>高齢者の健康増進について</p> <p>「きょういく」と「きょうよう」の言葉を先輩に聞いた事がある。又、博多駅前にある囲基会館で高齢者が「私ら年金生活者にはとても何回も来れる入場料では無い」との話を聞いた。利用料のみならず、交通費がバカにならない為と思う。合わせると1回のみに行く金額でもある。「きょういく」とは今日行くところ、「きょうよう」とは、今日、用があるとの意味。これが多い人は、人に多く会え、多く歩ける。まさに高齢者の健康の維持に欠かせない。囲基等の商売は零細であり、コロナで多くが消えた。少しの補助で健康、精神に資すると思う。</p>	<p>高齢者の健康維持のための施設として、市内には老人福祉センターナギの木苑があります。</p> <p>高齢者の交流、憩いの場として利用できる施設で、囲基もできる環境ですので、是非ご利用ください。</p>